

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 64人 |
| ② 数学 | 64人 |
| ③ 理科 | 64人 |

5 留意事項

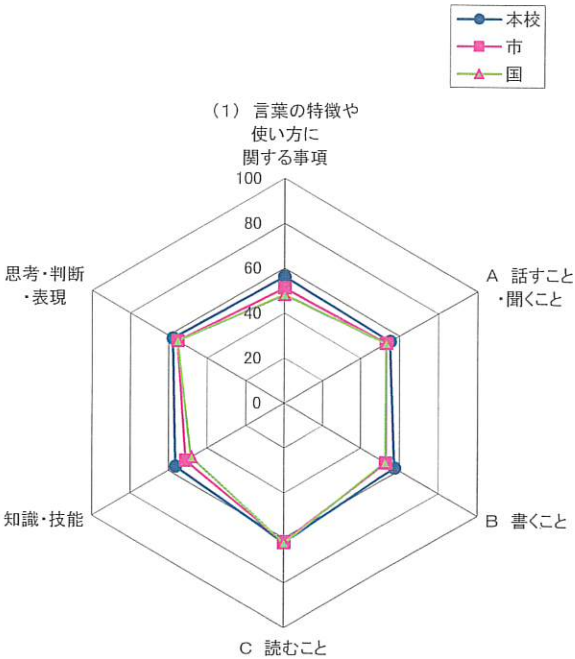
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	56.3	51.1	48.1
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	55.1	53.2	53.2
	B 書くこと	57.5	53.1	52.8
	C 読むこと	62.0	61.8	62.3
観点	知識・技能	56.3	51.1	48.1
	思考・判断・表現	57.8	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

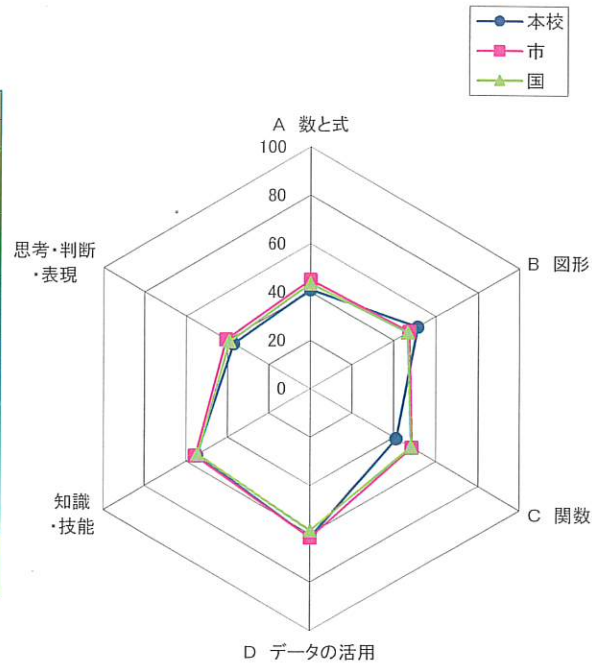
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や 使いに関する事項	正答率は、市平均を5.2ポイント、全国平均を8.2ポイント上回った。 ○文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題では10.6ポイント、事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題では4.2ポイント、県平均を上回っている。	・文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題の正答率は5割に至っていないため、今後も既習漢字と新出漢字のテストを継続して行っていく。 ・物語文や説明文などの文章を読む際、文中での語句の意味を確認しながら内容を理解できるよう、指導を工夫していく。
(2) 情報の扱い方に 関する事項		
(3) 我が国の言語文化に 関する事項		
A 話すこと・聞くこと	正答率は、市平均、全国平均ともに1.9ポイント上回った。 ○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題では、県平均を4ポイント上回っている。 ●自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して話の構成を工夫することができるかどうかをみる問題では、県平均を1.1ポイント下回っている。	・話し合い活動に前向きに取り組むことができる生徒が増えてきたので、更に説得力がある話し方ができるよう、根拠をもって話す活動を継続して行っていく。 ・自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるよう、繰り返し指導をしていく。
B 書くこと	正答率は、市平均を4.4ポイント、全国平均を4.7ポイント上回った。 ○書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題では9.4ポイント、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を考えることができるかどうかをみる問題では9.3ポイント、県平均を上回っている。 ●目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題は、県平均を1.2ポイント下回っている。	・根拠を明確にして自分の考えを書く活動を、授業で行ってきた成果が表れているので、今後も継続して行っていく。 ・今後は、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整え、更に相手に伝わりやすい文章を書くことができるよう指導をしていく。
C 読むこと	正答率は、市平均を0.2ポイント上回ったが、全国平均からは0.3ポイント下回った。 ○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題は、県平均を7.3ポイント上回っている。 ●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題は、県平均を6.2ポイント下回っている。	・物語文において、登場人物の人物像の捉え方についての指導を引き続き行っていく。 ・文章の構成や展開について根拠を明確にして考えるために、接続語や指示語、文末表現などに注意し、段落のつながりを整理するよう、指導を工夫していく。

宇都宮市立田原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	40.9	45.0	43.5
	B 図形	51.2	47.2	46.5
	C 関数	41.1	48.5	48.2
	D データの活用	61.5	61.6	58.6
観点	知識・技能	54.9	55.6	54.4
	思考・判断・表現	37.2	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	正答率は、市平均より4.1ポイント、全国平均では2.6ポイント下回った。 ○素数の意味を理解しているかどうかをみる問題では5.0ポイント、県平均を上回っている。 ●数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる問題では3.0ポイント、式に意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができかどうかをみる問題では、県平均を6.8ポイント下回っており、無回答率も約3割いた。	・いろいろな数量を文字を使った式で表す学習を各領域においても意図的に取り入れていき、知識や技能を使い、学習している内容を説明できる機会を多く設定し、その力を高める指導を行っていく。 ・文字の式を使って説明することを得意と思える生徒が増えるよう、生徒一人一人の考え方を称賛し、そのよさを感じ得ることができる授業展開を工夫していく。
B 図形	正答率は、市平均を4.0ポイント、全国平均を4.7ポイント上回った。 ○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題は、県平均を14.3ポイント上回っている。 ●総合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題は、県平均を3.4ポイント下回っている。	・証明をはじめ、問題解決における解き方など、自分の考えをもとに話し合う、協力して解決する活動によく取り組んでいるので、今後もこのよさを助長しながら、表現する力を伸ばし、より根拠をもって自分の考えを伝え合う活動を重視していく。 ・話し合い活動での考え方のよさに触れ、さらに追究していくこととする意欲から、統合的な見方や発展性などをフィードバックし、個々の振り返りに反映できるようにしていく。
C 関数	正答率は、市平均を7.4ポイント、全国平均を7.1ポイント下回った。 ○事象に即してグラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる問題では、県平均を9ポイント上回っている。 ●1次関数の変化の割合をもとに、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる問題では14.3ポイント、自称を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に証明することができるかどうかをみる問題では13.7ポイント、県平均を下回っている。	・2乗に比例する関数の学習においては、表・グラフ・式それぞれの基本的な知識と技能を、1、2年の既習事項を確認しながら確実に定着できる、単元を見通した授業展開を工夫していく。 ・本時の授業展開に役立つ、または定着を促す帯学習の設定や、家庭学習の見直しに役立つような宿題(課題)を工夫、実践していく。
D データの活用	正答率は、市平均を0.1ポイント下回ったが、全国平均を2.9ポイント上回った。 ○必ず起こる事象の確率について理解しているかどうかをみる問題では、県平均を8.9ポイント上回っている。 ●相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題では、県平均とは7ポイント下回っている。また、無解答率は低いことから、誤答の生徒が多い。	・不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるかどうかをみる確率の問題における正答率は約5割であったことから、樹形図や表を適切に使って判断していく学習の機会を設け、向上できるよう指導を工夫していく。 ・相対度数の他に、累積度数、代表値、箱ひげ図や四分位数などの理解と技能の確実な定着が図れるよう、帯学習や課題学習などで補充した学習を取り入れていく。

宇都宮市立田原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では4.4ポイント、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問では4.1ポイント、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問では5.0ポイント、「友達関係に満足しますか」の質問では2.0ポイント、県平均を2.5ポイント上回っており、これらの質問に対する生徒の肯定的回答はいずれも9割を超えている。これらのことから、教職員や友達との友好な人間関係のもと、生徒が高い自己肯定感をもち、安心して学校生活を送っていることが見取れる。今後も引き続き、一人一人に対し、その努力を認め、褒め、次の活動への活力につなげられるよう支援していきたい。

○「総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の質問では県平均を3.9ポイント上回っている。また、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」の質問では県平均と同等であった。これらの質問に対する肯定的回答は約9割であることから、互いの考えを尊重する学級の雰囲気の中、発表する力も備わってきていることが伺える。今後も継続して、さらに互いに高め合う集団づくりを進めていきたい。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげられることができていますか」という質問に肯定的な回答をした生徒の割合は7割を超えているが、県平均は0.5ポイント下回っている。また、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」の質問では、肯定的な回答をした生徒の割合は7割に至っておらず、県平均を8.5ポイント下回っている。今後は、学力向上に向けて取り組んでいる「既習事項を生かしたためあての提示」をさらに効果的なものになるように工夫し、生徒自身が1時間の授業内容や学びの過程を確認したりすることができるよう、生徒一人一人の変容を教師が見取る場としての振り返り活動を重視していきたい。

宇都宮市立田原中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・書くことによる、振り返りの実践	・「何ができるようになったか」伝え合ったり、書いたりするなど、言語による振り返りを行う。	・生徒質問紙の中にある国語の調査について、解答を文章で書く問題についてどのように解答したかという問いに対して、7割を超える生徒が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答をしており、県平均を4.7ポイント上回っている。文章を書くことへの抵抗感が少なくなっていることが分かる。しかし、国語の調査における自分の考えと考えた理由を書く問題は約1割、下書きを見直して修正した方がよい理由を書く問題は約4割、数学の調査における正しい記号を選んだ理由を確率を用いて説明する問題は約5割の正答率であることから、今後も継続して指導していく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすること」に対してあまり積極的ではない。	・生徒の主体性を引き出す授業の実践。	・既習事項を生かしたためあての提示を引き続き行い、前時との繋がりを明確にする。 ・課題や設問に生徒の身近にある事柄を取り入れ、学習内容と日常生活とを関連付けることで、関心・意欲を高める。 ・課題解決の見通しをもたせるために、学習のゴールを明確にし、授業で学んだ内容が実生活の場面でどう役立つのか、他者との対話や振り返りの中で考える場を取り入れる。